

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1072100306		
法人名	医療法人 光緑会		
事業所名	グループホーム ラビットホーム		
所在地	高崎市箕郷町富岡1427-1		
自己評価作成日	2011/10/31	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年12月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームは、箕郷梅林近くの静かな環境にあり、広い中庭もある。そのため、季節に応じて、花見や中庭の散歩等を積極的にを行っている。また、同敷地内にある訪問看護ステーションの看護師と連携をとり、利用者さんの体調管理に努めている。さらに、入居者が最も楽しみとしている食事は、副食のすべてを手作りとし、味だけでなく見た目も美しく食欲をそそる盛り付けに心がけている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

丘陵地に立地し、豊かな自然に移り行く季節を眺めながらの暮らしがある。かかりつけ医の毎朝の健康チェック、訪問看護ステーションの看護師及び毎月訪問する栄養士の方と連携し、理念に掲げる健康管理の支援がされている。食事担当職員は入居者の希望を聴いて家庭料理を基本に献立を作成し、味付けや盛り付け等工夫があり入居者に喜ばれている。職員は、日々入居者が笑顔になれる生活支援に取り組んでいる。副施設長は問題意識を持ちホーム創りに取り組む姿勢があり、食事、入浴、睡眠等その人が望む生活支援を心がけて、また職員が自主性を活かせる体制づくりを目指して行こうと考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果(U-1)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念を見直し、地域に支持される介護施設を目指し、心豊かでふれあいのある介護を通じ家族が安心できるよう、健康管理と安全な環境作りを謳った理念をつくりあげている。	開設時からの理念は見直され、職員は理念を基に入居者と触れ合い、心豊かに過ごせるよう日々取り組み、入居者や時代のニーズに応えられる支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候や利用者さんの体調にもよるが、地域の公民館主催のコンサートや箕郷地区のお祭りである「狐の嫁入り」の見物にしている。また、地域に住む高齢者のハーモニカ演奏等各種のボランティアの訪問を受けるなど地域との交流に努めている。	職員は、年1回地域の清掃活動に参加している。ハーモニカ・傾聴等の地域ボランティアが訪れ、ホームの忘年会には市担当者・地域のボランティア・家族等を招待している。しかし、日常的な地域との交流には至らない。地域との繋がりは大切であり、地域の高齢の方等緊急避難者への受け入れを担いたいと考えている。	地域で催す行事への参加や実習生や体験学習の受け入れへの働きかけ等、色々な機会を活かして地域との交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民に突発的必要性がある時は、緊急受け入れをする事を行政担当者に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、行事開催状況や外部評価及び自己評価を報告している。意見交換では、入居者の希望を取り入れつつバランスの良い調理を行なっていることを説明したり、外部評価の結果を自由に閲覧できることを説明したりしている。	2ヶ月毎の運営推進会議において、ホーム状況・評価結果等を報告している。出席者から情報を得たり、質問には説明したり、意見を聞いてサービス向上に活かしている。現在、意見が少ないので活性化を図って行きたいと考えている。議事録は詳細にまとめ、「掲示ファイル」に綴り、玄関に置いて閲覧できるようになっている。	議題の内容を検討し議題に合わせた幅広い人材の中からの会議の参加者を依頼する等をして活発な会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員とは、必要の都度連絡し、指導を受けたり、12月の忘年会には家族と市の職員の参加を頂き、意見交換等を行なっている。	新しい情報は大切と考え、市職員からの情報により講習会に参加している。また、報告や必要時には出向いて報告する事で顔見知りとなり、情報交換し、協力関係を築くよう取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時と場合により、最低限の身体拘束を行なう事がある(安全を優先して、家族の了解のもと行なっている)。	代表者、職員は身体拘束をしないケアについて理解しており、職員は身体拘束のシンポジウムに参加し、資料や報告書を確認している。やむを得ず身体拘束する場合は理由を書類に記載し、家族に説明して了承を得ている。安全を第一と考え玄関を施錠しているが、外出したい入居者には声をかけ、ドライブや散歩に出かけている。	玄関の施錠を含み身体拘束をしないケアについて、安全を第一と考えながら引き続きの検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当GHで可能なこと、不可能なことを理解してもらえるよう、分かりやすく説明しているつもりである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者の複数の家族が順番で参加し、意見が出やすくなるよう配慮している。	家族の面会時や支払いの折に、意見を聞き支援に活かしている。更に意見を聞く為に、毎月の請求書と共に連絡事項や意見欄を設けて各家庭に郵送している。意見は少ないので、継続的に家族へ面談して行く必要があると考えている。また、苦情受付窓口は契約時に説明し、意見箱は玄関に設置してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面会の頻度が少なければ、こちらからアプローチし、面会を依頼することもある。	毎週のミーティング及び2ヶ月毎の全体ミーティングでは、研修会報告やケア方法の意見交換がなされており、職員が意見を言える機会である。備品購入希望、研修参加の為の勤務調整等に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに応じた研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHの相互訪問、交流研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人はもちろん、入居後も必要に応じ、家族を含め面談を行ない、改善策を講じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いや情報交換にて、相互の受け入れがスムーズに行なえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHIに限らず、介護のあり方について幅広く検討した上で後悔のない洗濯をするようお話ししている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分ではないが実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	十分ではないが実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・宿泊は、時間に制限なく自由に選択可能にしている。	家族と一緒に過ごす時間を大切にして、月に1～2回家族と外食に出かける方がいる。外出の際に体調を心配する家族には説明して、家族に決めて頂くよう配慮している。訪問理美容を利用する方や家族が迎えに見え馴染みの美容院に出かける方もいる。また、ホームへ友人の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットを超えて、交流が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に大切にと心がけているわけではないが、多くの方々との親交がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好みを聞き取り、提供できるよう心がけている。	ティータイムにお茶やコーヒー等の本人の希望を聞いたり、居室から出たくない方には無理強いはせずに居室で過ごして頂いたりしている。困難な方はしぐさや表情から意向を汲み取り、家族からの情報を得て検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員・詳細には出来ていないが、おおむね把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に健康管理を主体に詳細に記録を残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、様子や健康状態を文書にて報告している。面会時にも、様子を伝えたり、必要であれば話し合いの場を設けている。	職員は、毎週のミーティング及び毎月個々の入居者のモニタリングや家族からの要望を聞き、会議で検討している。必要時介護プランは見直されるが、介護プランは6ヶ月～12ヶ月の介護認定更新時に作成となっている。家族には説明して了承を得ている。	安定している方であってもモニタリングを活かし、介護プランに反映をされるように介護プランの期間の見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に心がけている。状態の変化に伴う計画変更はもちろん、毎月介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じているつもりだが、同一家族間でも方針が異なることがあり、個々のすべてに対応することは困難。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時、相談や紹介を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各医療機関と提携し、希望に即した治療やリハビリが行える体制を整えている。	希望を聞き、入居前のかかりつけ医か協力医を受診している。入居前からのかかりつけ医受診の際は家族が同伴するが、状況により職員がサポートをしている。法人内の協力医は、毎朝ホームに見えている。歯、耳鼻、皮膚科等は往診があり、マッサージ師の訪問リハビリを利用の方もおり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が健康状態を十分に把握している。常勤の看護師は、提携訪問看護ステーションの看護師と連携して複数の視点で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	要望に即して対応している。早期退院の連携は、充実していると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に心がけて実行している。	過度の医療ほしくない方針であり、家族の希望により家族と共に看取りの介護をしている。緊急時対応について確認をしているが書式化されておらず、職員の共有化がされていない。今後は亡くなるプロセスに添ったの検討を考えている。看取りは家族と共に対応をすることが大切であり、職員の精神面への配慮も必要と考えている。	意志の確認書を含めた指針作成をされ、家族、職員が共通の理解された介護を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特別な訓練は行なっていないが、主治医や訪問看護ステーションと連携して迅速な対応が可能な体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分ではない。今後の最大の課題と捉えている。	年2回の内1回は消防署の指導の下、夜間を想定した火災訓練を入居者と共に行い、避難経路・避難場所を確認している。当日訓練に参加出来ない職員は、別の日に訓練を行っている。通報手順や緊急連絡網が電話近くに掲示され、自家発電を設置している。近隣への協力依頼は出来ていない状況である。	地域の方との日頃の付き合いを活かして、災害時の協力を依頼されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけて実践している。	一人ひとりの人格尊重を心がけており、「さん」付けの敬称を用いるよう徹底を図っている。排泄や入浴時等プライバシーに配慮しているけれども、具体的な言葉等の対応について職員の共有化はされていない。	介護時に入居者の人格尊重をした対応や言葉かけ等の勉強会を行い、共通の理解をして介護実践されるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分とはいえないが、心がけて実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とはいえないが、心がけて実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その場、その時期に合った服装ができるよう見守りや声かけを行なっている。理容・美容は、出張でお願いしている方が多い。中には、家族がきてする方や、行きつけのお店に行く方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞き取りメニューに反映し、個々のアレンジもしている。季節の物も、随時提供している。準備と片付けは、限られた利用者が時々一部を行なう程度。	調理担当職員は、入居者の希望を取り入れた献立を考え、季節の家庭料理を基本として調理している。月1回栄養士の方に栄養相談を行い、体調に合わせた食事を提供している。時折入居者が準備や片付けを行い、2名の職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に、意識して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	適宜、行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄意が少しでもある方は、夜間のトイレ誘導を行なっている。随時、排泄用具の検討や変更を行っている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄状況をみてトイレに誘導をしている。昼間はリハビリパンツを使用しているが、夜間は安眠出来ることが大切と考え、ポータブルトイレやパンツ・パット等排泄用具の検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	意識して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	適当にタイミングを見計らっているが、希望に合わせているわけではない。中には、お風呂を嫌う方もいらっしゃる。特別な浴槽を準備して、入浴困難な方にも全身浴ができるよう努めている。	週2回の入浴日としており、嫌がる方には声かけの工夫、シャワー浴や清拭で対応を行っている。柚子湯や仲良しの入居者同士の入浴等により、楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくりと睡眠できるよう心がけている。必要に応じ、夜間用の大容量尿取りパットを使用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に、薬に対する知識とそこから引き起こされる症状の理解に努めるよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時期の行事やならわしは、随時行なわれている。できる限り、日々の生活にも取り入れたいと考えているが、試行錯誤しているところである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人は困難であるが、本人の体調や身体機能、気候を考慮しながら行なっている。身体状況によるが、職員と共に近くの観光ドライブに行くこともある。	入居者は天気の良い日には近隣を散歩したり、花に水を遣ったり、洗濯物を干したり、ベランダの長椅子で外気浴を行ったり等の戸外活動をしている。希望により梅・桜・コスモス等の花見や独居の方は自宅に郵便ポストの確認に職員と一緒に出かけている。今後は中庭の活動や福祉タクシーを利用した外出支援をする予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前に家族に説明し、原則的には現金の持ち込みがないようお願いしている。家族含め自己責任で持ち込み管理している方もいらした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	たまに電話する方もある程度だが、希望時はいつでも取り次ぎしている。また、個人用の携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のないことを第一義に考え、できる限り、心地よく過ごせるよう配慮を行なっている。四季折々の飾りや草花は、常に絶やさないよう心がけている。	丘陵地にあり、ベランダから広い中庭や景色に移り行く季節が眺められる。ホール壁には入居者の行事写真が貼られ、季節の飾り付けがされ、その日の献立が書かれたホワイトボードがある。キッチンからご飯の炊ける匂いがあり、生活感、季節感のある暮らしの演出等をして居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	最短の近隣住民である隣接ユニット間の交流を行ない、気のあった仲間が自由に集える環境を提供できるようつとめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の家族と相談しながら配慮している。入居時や面会時などに、使い慣れた物の持ち込みをお願いしている。	居室には使い慣れた筆筒、時計、ラジオ、テレビ等が持ち込まれ、カレンダー、家族や本人の写真が壁に貼られている。誕生日プレゼントの花が飾られ、好みの洋服が掛けられている部屋等があり、生活スタイルに合わせた支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一義に考え、各居室に表札をかけている。場所間違いをしてしまう方の行動は、常に把握するよう普段から心がけている。		